

## そだちの芽

7・8月に実施した個人懇談会では、少しの時間でしたが保護者の方とお子様の育ちを共有する機会をいただきありがとうございました。懇談の中で、子育てや育ちに関する色々なご相談もお受けしました。こんな時、どうしたらいいの？うちの子だけ？等、そんなお悩みを抱えてらっしゃるのではないのでしょうか。子育て支援の一環として、私達も保育の参考になっている書籍の中から、子育てや育ちに関する情報を発信ができればと思います。不定期での発信となりますが、子育てや育ちの参考になれば幸いです。



ご家庭で一度は経験されたことがあるのではないのでしょうか。保育園でもよく見られる姿です。そんな時は、なにかあったのかな？と子どもの声に隠れている思いに向き合い、対応するようにしています。「今」望みに応えることの大切さを改めて感じた1ページでした。

参考文献  
かわいがり子育て  
3歳までは  
思いっきり甘えさせなさい  
著書 佐々木 正美

望みに応えるのは

「あとでね」より、

ちよつとだけでも「今」。

「おんぶして」「抱っこして」。

何でもないときに突然、子どもがこんなことをいうことがありますね。そんなとき、みなさんはどうしていますか。

「もう大きいのだから一人で歩こうね」としつけを意識して子どもの願いを退けているかもしれないですね。

でも、説得するより、まず、「おんぶ」という言葉の奥にある、子どもの声に耳をすませて欲しいのです。

たとえば、保育園や幼稚園にお迎えに来たお母さんに「ママ、おんぶ」と赤ちゃんに戻ったように甘える子ども…。

そんな子どもは、その日、お友だちとケンカをしたとか、先生に

叱られたとか、何か悲しい思いをして、「ボクなんかダメだ」と自己否定の気持ちになっていることが多いのです。

だから、「ボクはダメじゃないぞ」という自己肯定感を取り戻すために「手を貸して欲しい」と求めているのです。

こんな時、お母さんの抱っこは魔法のような効き目を発揮します。だから、「おんぶは角のケーキ屋さんのところまでね」と、ちよつと手を貸してあげればいいのです。それで、子どもの気持ちは満たされます。

「言えばいつでもおんぶしてもらえる」という安心感ができ、「ボクのお母さんは自分のことを大切にしてくれている」という思いがもて、信頼感が育まれます。

すねているときとか、イタズラしているときなども、子どもの心の声に耳をすませていると、「あとでね」ではなくて、ほんのちよつとでいいから「今」望みに応えることが大切なんだとわかります。

